

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和8年6月

1 喜界町で畜産座談会が開催される

5月27日、喜界町畜産部会主催の喜界町畜産座談会が開催され、農家、関係機関・団体約30人が参加しました。会では、購買者に実施したアンケートの結果や5月子牛セリ結果をもとに、喜界家畜市場の評価向上に向けた話し合いが行われました。飼料等の生産資材価格の高騰が続く中、農家の所得向上のためには、子牛の商品性向上及び生産費の削減が課題となっています。今回の座談会で、参加農家が実践している課題解決に向けた取組等について意見交換がなされ、今後の喜界家畜市場の評価向上が期待されます。

2 樹勢回復に向けたカンキツ管理講習会を開催！

5月末から6月にかけて、奄美大島の各市町村でカンキツ管理講習会が開催されました。昨年度の着果過多の影響で生理落果が進み、残った果実の肥大は、例年より半月ほど早く進む傾向でした。樹勢の低下や黄化落葉症、病虫害への抵抗性低下が懸念されたため、毎年この時期に行う粗摘果を遅らせること及び夏肥の投入による樹勢回復に努めるよう指導しました。今後も農政普及課では、定期的な巡回指導等を通じて関係機関と連携しながら、生産者へのきめ細やかな支援に取り組んでいきます。



講習会の様子（宇検村）



講習会の様子（瀬戸内町）

3 「令和8年度新規就農者励ましの会」の開催

6月9日、大島地区農業改良普及事業協議会、大島支庁農政普及課共催の「新規就農者励ましの会」が、アマホームPLAZAで開催されました。総勢55名が見守る中、新規就農者8名の門出を祝いました。「奄美で食べたたんかんに衝撃を受けた。たんかん生産を通じて地域に貢献できる農業者になりたい」「父のさとうきび技術を習得し、経営発展したい」など、自立経営を目指した今後の抱負や決意を発表しました。大島支庁長、指導農業士他から、「素晴らしい先輩方が存在する。困難に直面したときは遠慮なく相談を」「農業を選択された皆さんは貴重な存在、誇りと自信を持って」等のエールが贈られました。農政普及課では関係機関・団体と連携し、農業基礎講座や研修会を通じた新規就農者の定着支援を行って参ります。



記念品の贈呈



新規就農者と関係機関・団体

4 「奄美うなりまーじん会」研修会を開催！

6月12日、女性農業者組織「奄美うなりまーじん会」の研修会を、くすだファーム直売所にて、代表の楠田哲氏を講師に開催しました。楠田氏はかねてより体験交流や視察の受入れに力を入れており、多品目の野菜の栽培を通して、多くの方と交流を行っています。研修会は楠田氏の経歴を中心に質疑応答形式で行われ、会員らは研修の受入れや台風対策に興味を持っている様子でした。今後も農政普及課では、女性農業者の交流を図る場を設けて参ります。

5 台風に負けない！「奄美市パッションフルーツ品評会」の開催

台風6号による被害の影響で開催が危ぶまれていました奄美市の「パッションフルーツ品評会」は、6月16日に13点が出品され、無事開催されました。審査は、玉揃い、果皮の着色・障害の有無による外観と、糖度・クエン酸含量の品質で評価されました。外観は甲乙付け難い美品揃いで、品質は成熟期での日照不足による影響が懸念されましたが、平均糖度16.9、クエン酸含量1.69と、バランスの良い結果となりました。総合点の高い順に金、銀、銅賞が決まり、そのうち銀賞は栽培1年目の新規就農者でした。今後の栽培に弾みがつくものと思われました。



厳正なる審査風景



入賞したパッションフルーツ

6 夢への第一歩！「瀬戸内町営農支援センター入所式」が開催される！

6月30日、瀬戸内町役場にて、新規就農支援施設である「瀬戸内町営農支援センター」の令和8年度入所式が開催されました。今年度は2名の研修生が入所し、同センターで1年間、主にパッションフルーツの栽培について学びます。地域の関係者が見守る中、研修生は「しっかりと知識・技術を身に付けていきたい」「島の特産物を全国にPRしていきたい」など、研修に臨む決意や農業への夢を力強く宣言していました。農政普及課では関係機関と連携しながら、研修生に対する日頃の技術指導や各種研修会を通じて、就農支援を行って参ります。



研修生と関係機関・団体